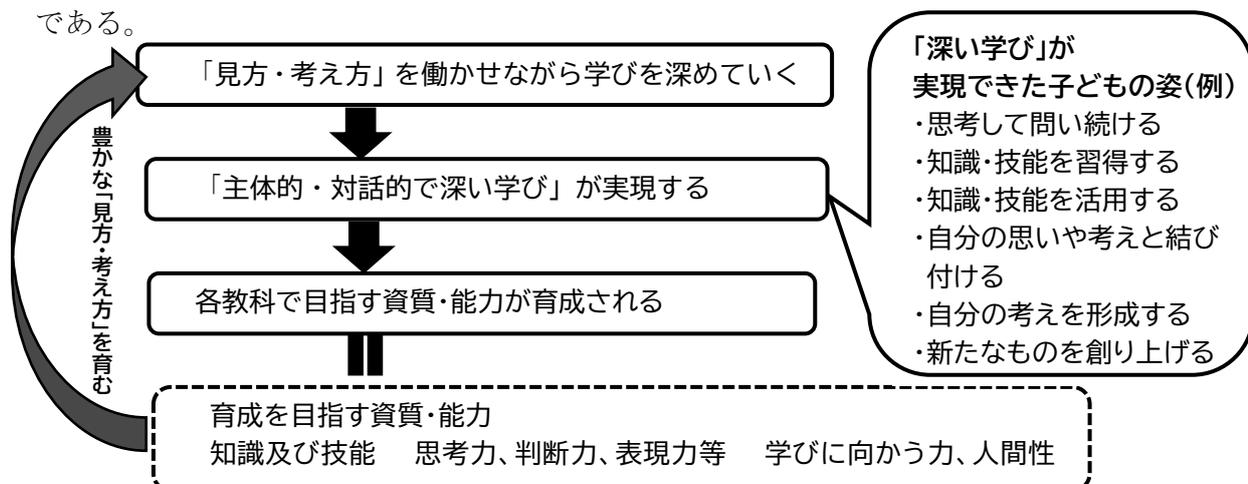


Q1: 「見方・考え方」を働かせるとはどういうことか、教えてほしい。

A: 「見方・考え方」とは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科ならではの物事を捉える視点や考え方である。また、「見方・考え方」は、各教科等の学びを通じて資質・能力を身に付ける過程で、子どもたちが働かせるものである。「見方・考え方」を働かせることを通して「深い学び」が実現し、資質・能力が育まれ、それによって「見方・考え方」が更に豊かになるという相互関係がある。

## 1 「見方・考え方」と「深い学び」の関係

「深い学び」の鍵とされているものが「見方・考え方」である。子どもたちは、学びの過程において、各教科で習得した知識を活用したり、身に付けた思考力を発揮させたりしながら「深い学び」に向かう。この学びの過程で働かせているのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。



## 2 「見方・考え方」を働かせた授業づくりの工夫(国語科の例)

授業を構想する際、単元や題材及び授業の目標を明確にした上で、いつもの授業に子どもたちが「見方・考え方」をどのように働かせるのか、という意識をプラスして授業づくりを行う。

第2学年国語科 単元名 ばめんごとに読もう 『お手紙』(アーノルド・ローベル作)(第6/13時)  
《本時の目標》場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか?

「見方・考え方」を意識した授業づくりへ資質・能力の育成に向けた授業改善  
(栃木県総合教育センター)より抜粋

【教師の発問】

かたつむりくんを待つ二人の様子や気持ちを話し合しましょう。

登場人物の行動や気持ちが分かる部分を見付け、どんな気持ちなのかを話し合わせれば、対話的な学びになるぞ。

【児童の反応】

がまくんは、「しあわせな気持ち」で待っていると思うよ。だって教科書に書いてあるから…。

たろうさん

かえるくんは、きっと「かたつむりくん遅いなあ、まだかなあ」って思っているのだと思うよ。

はなこさん

「様子や気持ちを話し合おう」という発問では、活動が焦点化されず、教科書の内容をなぞったり、何となく個人の感覚から捉えたりした考えや思いだけを伝え合う活動になってしまいがちです。

ここに、「見方・考え方」を働かせる意識をプラス!

## 国語科の見方・考え方＝言葉による見方・考え方

国語科は、言葉そのものを学習対象とする教科である。言葉に着目した授業を展開することで子どもたちは言葉の意味や働き、使い方を意識するようになる。言葉に意識が向くような意図的な問いかけと、言葉を手掛かりに試行錯誤するような言語活動で、言葉への自覚を高めることができる授業を構想することが重要である。

### このような授業にしていきましょう！

単元を見通した言語活動の設定：子どもたちが自分の解釈を言語活動（音読劇）に生かしたくなる学習展開の設定

#### 【● 考える視点を明確にする発問 ●】

がまくんの気持ちが「しあわせ」が変わったところは、ずばり！どこ？



ぼくは、二人で玄関に座ってお手紙を待っているところだと思うな。ほら、ここに「とてもしあわせな気持ちで」って書いてあるよ。



そうかなあ。私は、かえるくんがお手紙書いたって伝えたところだと思うよ。だって、うれしそうに「きみが。」って言っているでしょう。

〈児童の姿〉  
考える視点が明確な発問なので、自分の考えをもちやすくなり、理由と共に話すことができている。

【「深い学び」が実現できた姿】  
(例)自分の考えを形成する…と捉える

#### 【● 着目させたい会話文を取り上げ、全体で吟味させる ●】



はなこさんは、「きみが。」とうれしそうに言っていると思ったんだね。ほかの人はどう思った？ 「きみが。」には、どんな気持ちが込められているのかな。

「きみが。」は、驚いて言っていると思って音読していたけれど…。うれしい気持ちもあるかもしれないな。



がまくんは、お手紙は来ないってあきらめているから、うれしそうには言っていないと思うな。

#### 【● 無自覚な解釈を自覚的にさせる問い掛け ●】



たろうさんは、どうして「あきらめてる」って思ったの？



だって、がまくんはずっと「ばからしいこと言わないよ」とか「来やしない」って言っているでしょう。言葉遣いが悪いよね。「来ない」じゃなくて「来やしない」って言っているから、もう絶対あきらめてるって感じがする。



確かに…。こんなに機嫌が悪いのに、かえるくん「ぼくがお手紙書いたよ」って言われても、信じられないかもね。私だったら、そんなに急に喜び気持ちになれない気がするなあ。

〈児童の姿〉  
教師に「あきらめてる」と思った理由を問われ、自分が読み取っていたことを改めて考え直しました。その結果、がまくんのせりふである「来やしない」の表現に着目することができ、「来ない」と比較して、その言葉の強さや、そこに込められた気持ちを捉え直すことができました。

〈児童の姿〉  
友達の発言を受けて、これまでのがまくんの機嫌の悪さに気づき、自分の経験を踏まえながら、もう一度「きみが。」に込められた気持ちを、考え直しています。

【「深い学び」が実現できた姿】  
(例)思考して問い続ける…と捉える

「見方・考え方」は、大人になって生活するにあたって重要な働きをしていくものである。日々の授業で鍛えられた「見方・考え方」を自在に働かせながら、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、よりよい社会や自らの人生を創り出していける子どもたちを育てていく必要がある。



「見方・考え方」を意識した授業づくり～資質・能力の育成に向けた授業改善～

#### 【参考資料】

- ・ 「「見方・考え方」を意識した授業づくり～資質・能力の育成に向けた授業改善～」 R03.3 栃木県総合教育センター
- ・ 「初等教育資料 新学習指導要領の実現に向けて」 R01.9 県教委
- ・ 「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編」 H29.7 文部科学省

